

豊かな生きもの環境を 環境教育から農業の活性化まで活用

静岡県：水土里ネットいわた用水 みどり ようすい

○団体の活動目的と経緯は？

【目的】

水田環境保全施設を活用した環境教育と環境保全型農業を推進

【経緯】

地域活性化を目的に「食と農、地域をつなぐイワトープラン」を策定。その一環として生きもの調査を実施したところ、環境配慮施設等では生きものの生息環境が良好であることから、教育・保全型農業推進等の活動を開始した。



生きものブランド米

○環境保全施設と関連情報

【環境保全施設】魚巢ブロック水路、排水路から水田に遡上するためのスロープ

【活用した事業等】県営経営体育成基盤整備事業

【保全対象生物】魚類、両生類、鳥類、水生昆虫等

○どんな生態系保全の取組を実施？

1. 水田環境調査（田んぼ周辺の生きもの調査）
 - ①他の団体と連携した生きもの調査
 - ・近隣の小学生を中心として、他の団体と連携した現地調査及び出前授業を実施している。さらに、外来生物の調査も行っている
2. 水田畦畔植生調査
 - ①植生調査と最適な維持管理方法の研究
 - ・県の研究所と当団体が連携して、害虫抑制や草刈労力の節減について調査研究を実施
3. 生物多様性ブランド等による啓発普及活動
 - ①生物多様性ブランド化に向けた米の販売の支援
 - ・農機具や苗等を販売するお店などに協力してもらい、店頭での試験販売と消費者調査を実施



生きもの調査



水田魚道

○継続した活動でこんな効果が！！



出前環境学習の様子

■地域住民の環境保全意識の向上

・田んぼにつながる河川や田んぼの周りの生きもの調査は、地域の小学校や公民館から生きもの調査活動の支援依頼が増加傾向にある。

■保全活動員（農家）の意識変化

・活動に参加している稲作農家も昔を懐かしみ、生きものを大切にする生産環境を意識する声が出てきている。

○課題・苦労した点

■ブランド化のための活動に対する周辺農家からの理解

・病虫害対策として自然由来のものを使用したり、水源確保等が課題となる冬期用水の通水などへの理解を求めるために時間を要した。

■小学校への生きもの調査参加依頼

・食農教育の一環として田んぼの周りの生きもの調査を教育委員会に提案したが、取り組む小学校がなかなか現れなかった。

○工夫した点

■農家側の負担抑制

・ブランド化のための生きもの調査や袋のデザイン、消費者のニーズ調査や販路の獲得などを当団体が実施して、農家の方になるべく負担がかからないようにした。

■現役の先生への提案

・食育に関心のある知り合いの現役の先生に相談して、小学 5 年生の総合学習として田んぼ周りの生きもの調査等を開始した。

○活動の特徴！！

■食育を含めた保全活動の総合学習化へのプロセス

・教育委員会への依頼だけでなく、直接現場の先生へ相談することで、総合学習として保全活動への参加が定着した。以降、支援依頼が増加し保全活動の継続に繋がっている。



○団体の概要は？

- ・昭和 25 年度に設立され、活動エリアは静岡県袋井市・磐田市・森町（旧三川村辺り）である。
- ・紹介事例に係る年間活動日数は、約 10 日である。

